



くりはら田園鉄道時代の駅舎外観



鉄道公園化に伴い改装した若柳駅外観

旧若柳駅 information

開館時間	10:00-16:00 まで
休館日	毎週火曜日・冬季閉鎖有り ※火曜日が祝日の場合は翌平日が休館となります。
旧若柳駅見学科	無料

	お一人様 / 消費税込	一般 (小学生以上)	未就学児
旧若柳駅アトラクション利用料金			
くりでん乗車会		300円	無料
レールバイク		通常1台500円のところ、2026年全台無料	
お一人様 / 消費税込		初回	2回目以降
KD95形運転体験		30,000円	25,000円

●開催日はWEBサイトなどでイベントスケジュールをご確認ください。

くりでんミュージアム information

	お一人様 / 消費税込	一般 (高校生以上)	小中学生
ミュージアム入館料			
個人		500円	300円
団体		400円	240円

●有料入館者15人以上を「団体」とさせていただきます。
●宮城県内の小中学生は土日祝および長期休暇中に「社会教育施設の無料開放事業(バスポート)」が利用できます。●未就学児無料



くりはら田園鉄道公園
 くりでんミュージアム 旧若柳駅 芝生広場
 KURIDEN MUSEUM & RAIL PARK

宮城県栗原市若柳川北塚ノ根17番地1
 TEL: 0228-24-7961 FAX: 0228-24-7962
 【ホームページ】 <https://www.kuridenpark.com>
 【メールアドレス】 info@kuridenpark.com

学び、遊び、体験を通して くりでんを伝える

くりはら田園鉄道公園

KURIDEN MUSEUM & RAIL PARK

旧若柳駅

保存車両ガイド



くりはら田園鉄道公園は、

くりでんミュージアム・旧若柳駅・芝生広場の複合施設です。

若柳駅では4月から12月まで乗車会を行っています。

くりでんミュージアムは2027年4月1日で開館10周年!



若柳駅:大正9年(1921年)開業当時の駅と機関車(写真)
開業時から変わらずこの場所でくりでんを支えています。

くりでん旧若柳駅のアトラクション

未就学児は乗車無料

くりでん乗車会 (小学生以上1名300円)

体験場所/旧若柳駅(4月~12月まで)
 旧若柳駅と900m先の片町裏信号所の往復乗車体験イベントを毎月開催しています。硬券切符・切符箱・改札鉄などの道具類や、閉塞機・信号テコの操作にもご注目ください。

レールバイク乗車会 (料金無料継続中)

体験場所/旧若柳駅(4月~10月まで)
 自転車の要領でレール上を進む乗り物です。往復1.8kmの乗車会を毎月開催しています。2025年に実施した乗車料金無料を、好評につき延長して実施します。ぜひご来場ください。

KD95形運転体験 (有料/要予約)

体験場所/旧若柳駅(5月~10月まで)
 上記期間中毎月2回、車両の運転体験を実施しています。使用する車両はディーゼル車両のKD95形。1日4組限定。施設のWEBサイトにて料金案内と予約フォームをご確認ください。

くりでん旧若柳駅の見学

駅舎・構内見学 (無料開放・16時で閉館)

展示場所/くりでん旧若柳駅(4月~12月)
 旧若柳駅は4月から12月の創業祭まで無料で開放しています。駅舎から入場し、待合室、駅構内、保存車両が見学可(乗車不可)。貸切や催し等で見学不可の場合有。

WEBサイトをご覧ください



最新情報やイベントの詳細が更新されています。

<https://www.kuridenpark.com>

くりでんミュージアム 検索



★2026年の注目イベント★

乗車会他、様々な催しが行われます。
 若柳桜まつり 2026年4月12日(日)
 こどもまつり 2026年5月4日(月)5日(火)
 くりでん創業祭 2026年12月5日(土)ほか

若柳駅 保存車両一覽



大正9年に建てられ、開業当時からくりでんを支えた駅舎「若柳駅」は、くりはら田園鉄道公園整備によって大正時代の姿に改装され、保存・公開されています。

改札を出た先の構内にはくりでんを支えた保存車両10両が展示されており、4月から12月までの間はアトラクションゾーンとして、「くりでん乗車会」「レールバイク乗車会」「運転体験」が行われています。

形式	M15
最大寸法(全長)	15,700mm
高さ×幅	4,080×2,700mm
自重(t)	27t
定員(座席)	120名(44名)
製造所	ナニワ工機
製造年	1955年(昭和30年)
ブレーキ	SME貫通自動式
活躍した時代	栗原電鉄



電化後、改軌した1955年に3両新造した栗原電鉄の主力車両。

M153

栗原電鉄が1067mmへの軌道にあわせて1955年に導入した電動客車である。電機品は三菱電機、台車は住友金属工業、車体はナニワ工機がそれぞれ製作した。客室裏面に取り付けられている製造社銘板は3社合同の珍しいものである。導入時から、1995年の動力方式変更まで、栗原電鉄の主力車輛として旅客営業に使用された。

栗原電鉄時代の貨物輸送の主力。ED18からED20へ改造し活躍。

ED203

当初はED18形と称し軌間762mm用であった。本線の軌間を1067mmに改めたのに伴い、1955年と1957年に台車を改造して1067mm用とし、同時にED20型と改めた。栗原鉄道→栗原電鉄の歴史を体現する唯一の車輛と言える。貨物輸送に使用された主力機関車。

形式	ED20
最大寸法(全長)	8,768mm
高さ×幅	3,470×2,070mm
自重(t)	20t
製造所	中日本重工
製造年	1950年(昭和25年)
牽引力	2400kg
ブレーキ	KL-14型
活躍した時代	栗原鉄道～栗原電鉄



ワフ74

車掌室つき有蓋貨車、大正生まれの現役古老。1959年に栗原電鉄が西武鉄道より購入した有蓋緩急車。

形式	ワフ7
最大寸法(全長)	6,312mm
高さ×幅	3,200×2,410mm
荷重(t)	7t
自重(t)	6.3t
製造所	天野工場
製造年	1914年(大正3年)
導入した年	1959年(昭和34年)

西武鉄道から購入した無蓋貨車。1955年の導入から、1987年の貨物営業廃止まで使用されその後も2005年まで在籍。若柳駅では102、103の2両が保存。

ト102

ト103



形式	ト10
最大寸法(全長)	6,312mm
高さ×幅	1,705×2,362mm
荷重(t)	10t
自重(t)	10t
製造所	日本車輛
製造年	1907年(明治40年)
導入した年	1955年(昭和30年)



栗原電鉄時代に導入し、約40年活躍したディーゼル機関車

DB101

形式	DB10
最大寸法(全長)	5,150mm
高さ×幅	2,620m×2,499mm
自重(t)	9.8t
製造所	協三工業
製造年	1965年(昭和40年)
牽引力	1,480kg
ブレーキ	入換形空気ブレーキ兼手動ブレーキ
活躍した時代	栗原電鉄～くりはら田園鉄道



TMC 100F

富士重工業株式会社の軌道モーターカー

白鳥と伊豆沼のレリーフが目印

KD951



形式	KD95
最大寸法(全長)	16,500mm
高さ×幅	4,090×3,090mm
自重(t)	26.7t
定員(座席)	103名(44名)
製造所	富士重工(株)
製造年	1995年(平成7年)
ブレーキ	SME三管式直通空気ブレーキ
活躍した時代	くりはら田園鉄道

KD953

栗駒山と駒姿(馬)のレリーフが目印



非電化したくりはら田園鉄道時代に3両新造したディーゼルカー。

KD95形

電化を廃止し内燃化移行した際に3台新造した富士重工業製の車体長16m級の軽快気動車で、内装には宮城県産木材を多用し、「カンテラ風」の前照灯を取り付けるなどレトロ調に仕上げられた凝った作りになっている。

第3セクター化の際に嵩上げされたホーム高にあわせた車体設計のため、乗降扉の足元の位置はやや高めで、逆に扉下段差(ステップ)の高さは極力抑えられている。廃線後も3両ともに現存し、KD951とKD953は定期的に動態保存車両として活躍。KD952は線路が分断された旧機関庫内に静態保存。

KD11

非電化したくりはら田園鉄道時代に名古屋鉄道から移籍したレールバス。

KD10形は元名古屋鉄道キハ10気動車で、富士重工業製LE-Carの営業用第一号。朝の通勤客対策のため1995年に名古屋鉄道から2両転入したが、晩年は2両で運行する必要がなくなったため、2005年春以降は定期運用を失った。現在は旧若柳駅にKD11が保存され、動態保存活動に使用されている。KD12は線路が分断された旧機関庫内に静態保存。

形式	KD10
最大寸法(全長)	12,000mm
高さ×幅	3,716×2,724mm
自重(t)	16.4t
定員(座席)	88名(36名)
製造所	富士重工(株)
製造年	1984年(昭和59年)
ブレーキ	SME三管式直通空気ブレーキ
活躍した時代	くりはら田園鉄道



車両写真撮影: 武川健太